

## 蛸〈たこ〉の足〈あし〉（赤穂市御崎）

赤穂御崎〈あこうみさき〉が、まだ、今のように有名でなく、さびしい漁師町〈りょうしまち〉だったころの話です。

ここに、昔から、「蛸〈たこ〉をたべることまかりならぬ。」という家訓〈かくん〉（家のさだめ）をもった家がありました。先祖代々、何百年もの間、それを守りつづけてきました。

そこで、そのわけを聞いてみました。

ある日のこと、この家の主〈あるじ〉が、御崎の北にあたる万五郎谷へ草刈りにいきました。ひと仕事のあと、少し休もうと腰をおろしますと、海岸のトリ石という岩の上に、大きな蛸〈たこ〉がひる寝をしているのが見えました。

あまり大きな蛸に見えたので、トリ石のところまで行ってみました。蛸は、人が近づいたのも気がつかずに、いびきをかいて寝ていました。

主は、ふと、こんな大きな蛸は、たべてもさぞうまいだろうと思ったので、いきなり持っていた鎌〈かま〉で蛸の足を切りとりました。蛸が怒って追ってきては大へんと、切りとった蛸の足を握って、一目散〈いちもくさん〉に走りました。家へ帰って、その足を煮〈に〉てたべました。とてもおいしい味がしました。

あくる日、主〈あるじ〉はまた万五郎谷へいってみました。すると、どうでしょう。トリ石の上に、足が七本になった蛸が、またひる寝をしているではありませんか。主は、きのうたべた蛸の足の味が忘れられず、足音をしのばせて蛸に近づき、また足を一本切ってもってかえってたべました。

こうして、そのあくる日も、またあくる日も、同じように、蛸の足を切ってもちかえり、煮てたべました。

八日目になりました。主がきょうもトリ石のところに行きますと、一本足の蛸がやはりひる寝をしておりました。そっと近づいて、八本目の足を切ろうとしますと、蛸がはじめて眼をさまして

「蛸の足は、そんなにうまいか…」

と、いいました。

主はびっくりして、もう足を切るどころではありません。まっさおになって逃げて帰りました。

その晩から、高い熱がでて、

「蛸がものいうた、蛸がものいうた。」とうわごとをいいながら苦しみました。

それから、この家では「蛸は食べてはならぬ。」という家訓をつくって、代々まもってきたということです。

